熊本市立白山小学校　学校便り

うるとら白山

令和８年６月２日（火）
No．４
文責：藤本

講話集会（６月２日）５分間、話をしました。

「生命（いのち）を大切にする」ことを、いろいろな学習の中でしっかり学んでいけるよう、白山小では先生たちみんなで力を合わせて取り組んでいきます。左上の、受け継がれる生命（いのち）、隣の、健康を大切にする生命（いのち）、右上の、一つしかない生命（いのち）をしっかり守ること、など、ありますね。

さて、校長先生は、この前、ドライブで小国町というところに行きました。小国町は、地図の緑のところが熊本県で、熊本市から見たら阿蘇山の向こう側、熊本県の端っこにあります。

小国町では、北里柴三郎記念館というところに行きました。北里柴三郎の銅像が、このように立っています。どんな人かわかりますか？

この写真ならどうですか？　そうです、千円札に載っている人ですね。みなさん、千円札で見たことのある人です。北里柴三郎記念館は、このきれいな建物の中で、いろいろなものを見ることができます。他に、柴三郎が作った図書館があったり、住んでいた家やお客さんをもてなす家があったりします。

北里柴三郎は、何をした人か知っていますか？　一言でいえば、世界中のたくさんの人の命を救った人です。破傷風という、全身を痙攣させて、悪くなると死んでしまう恐ろしい病気があって、その治療方法や予防方法を発見しました。他にも、ペストと言って、１度かかると死んでしまうことが多い病気の菌、細菌を発見して、その予防法を考えて、世界中の多くの人々を救いました。伝染病を予防したり治療したりした人です。

この話を聞くと、先ほどの図の、受け継がれる生命、健康を大切にする生命、一つしかない生命の話のことだと、思いますよね。

でも、校長先生が、記念館で一番気になったのは、縁側の板の写真です。「光る縁側」と書いてありました。縁側とは、部屋と庭の間にある板張りの通路です。写真の子どもたちが雑巾がけをしているところです。

柴三郎は、10 歳の時に、おじさん、おばさんがいる親戚の家に預けられたそうです。おばさんから「毎日、縁側を雑巾で拭くよいに」と言われます。ちょっとだけ拭いて遊びに行こうとすると、「もう一度、拭いておくれ」と言われます。徹底しておばさんに言われる中で、縁側が少し光ってくると、自分から「もっと光るようにしたい」と考えるようになります。それ以来、一日も欠かさず、２年間拭き続けます。

２年後に、自分の家に帰る日、おばさんが２年間頑張ったご褒美を用意して部屋で待っていると、柴三郎はなかなかやってきません。おばさんが縁側に行ってみると、ピカピカに光った縁側を、じっと見つめる柴三郎の姿があったそうです。じっと見つめていたそうです。じっと見つめて、柴三郎はどんなことを考えていたのでしょうか？

柴三郎が病気を治す研究の中にあった姿、それは、あきらめたり妥協したりせずに地道に努力する姿、それから、応援してくれる多くの人たちの期待を一度として裏切ることがなかった姿、であるそうです。その姿の原点は、10 歳の時に ２ 年間毎日、縁側を磨き上げた姿にあるのではないでしょうか。「終始一貫」、柴三郎が何より大切にしていた言葉です。写真は、柴三郎が書いたものです。

校長先生が気になった部分の話は、この図を見ると、左下の「精一杯生きる生命（いのち）」、右下の「友達を大切にする生命（いのち）」に、とてもかかわる話だとも思いました。小国町の北里柴三郎記念館を訪ねて、校長先生が「一番気になった」話を今日はしました。これで、校長先生の話を終わります。

学校評議員会

５月 22 日（金）の授業参観・学級懇談会は、たいへんお世話になりました。

同時刻に、学校評議員会も行われました。今年も５名の学校評議員の皆様にお世話になります。

全クラスの授業を見ていただいた後に、会の中で、本年度の本校の教育の重点について、ご説明しました。「対話」を軸とする取組にご賛同いただきました。また、働き方改革についての地域や家庭への理解促進、いじめ等防止に向けた「きずなアンケート」の重視など、貴重なご意見をいただきました。